

家庭害虫百科小事典

●いざというとき、アドバイスしてくれるくらしのよみもの(保存版)●

知られざるシロアリ帝国



帝国の建設

まず、羽のついた雌雄のシロアリ——つまり、女王と王からはじまる。5~6月にかけて、羽アリが大群をなして外に飛び出す。シロアリのハネムーン飛行だ。飛行が終ると女王と王は、暗くて、湿気の多い、そして木材のある場所に小さな新居を構える。



帝国の基礎がため

新居で女王と王は、ひたすら生殖にはげむ。帝国の基礎は、働きアリと兵アリの充実である。女王アリは8~15年の一生の間に30~100万個におよぶ卵を生むという。帝国は、ほぼ3年経つと、破壊力にみちた恐怖の帝国が完成する。



帝国の構成メンバー

帝国を下から支えるのは、働きアリだ。帝国の90%以上が彼らで占め、食糧確保から幼虫の養育まで、戦闘以外は何でもこなしてしまう。兵アリは、外敵と戦うことを役目とし、王室のまわりで護衛にあたっている。その他、副女王と副王アリがいるが、連中は、女王や王アリの生殖能力がなくなつた時に、代って生殖を行い、またニンフ(擬蟻)といって、将来、羽アリとなって、別天地に帝国の分家を築く女王アリ、王アリ候補生である。



家を食べる



1 シロアリ

害虫の王者

人間たちが、害虫不人気投票をしたら……恐らく、シロアリとゴキブリがトップ争いを演じるだろう。その両者は、奇しくも3億年の昔、同類から分派した兄弟分のようなものだ。マフィアの兄弟分にも負けずおとらず、その存在は、ショッキングである。特に、シロアリの破壊力たるや、新築家屋が、わずか2~3年でボロボロに崩壊してしまうほどである。

「詳細は、裏面ご質問にお答えいたしますQ1参照」

どんな悪条件でも

たくましく生きる超能力

3億年にわたる種族の維持と繁栄をもたらした連中は、地球上のあらゆる変化にも適応してきたといふしたたかな自信にみちている。山をきりくずし、森をきりひらいた今日の住宅ブームは、シロアリたちの安住の地をうばうことになった。強烈な生命力をもつ彼



らは、木材の豊かなところに移り住めばいいと判断したらしい。私たちのマイホームは、彼らにどうでもマイホームとなった。

人間の生活環境の向上は、そのまま、彼らにとっても好つごうなことで、四季を問わず、一年中、破壊活動を活発化させる皮肉な結果をまねいたのである。

なんでもたべる恐怖の食欲!

勢力回復をえた連中は、信じられない破壊活動にも着手はじめ

た。衣類はおろか、紙類、塩化ビニール、発泡スチロールさらには電線、コンクリート……とどまることなく悪食の牙をむけているのだ。



台所の親玉



2 ゴキブリ

恐怖のおじやま虫

およそ3億年前、地球上に出現した昆虫の1群で、あの圧倒的な生命力と破壊力を誇るシロアリ軍団とは兄弟分の関係にある。

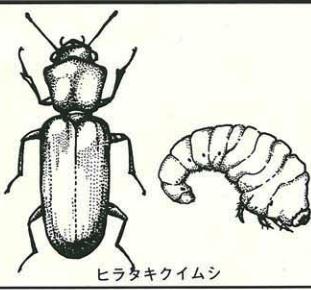
本来、ゴキブリといっても、ひっそりくち木の中で暮らしている連中が主力で、人間社会にわり込んでいるゴキブリは特殊な存在だ。

ま、しかし、家庭内をワガ者顔でのし歩くおじやま虫たちを見ていると、腹だたしくなる。ゴミた

め、便所……汚ない場所が大好きという連中である。おまけに、連中ときたら小児麻痺をはじめとする伝染病プロ一カーと、悪役も徹底している。

まして、なまじの殺虫剤では効果はなく、大がかりな燐煙法を除けば、残念ながら、せいぜい粘着剤つきのトラップぐらいしかなく本格的な必殺法は、やはり、プロの業者にまかせるしかないようである。

家具を食べる



3 キクイムシ

静かなデストロイヤー(破壊者)

春から初夏にかけて、家具の表面に小さな穴があき、木の粉や虫の糞がふき出しているのに気づいた方は多いと思う。この時はすでにおそらくさんざんくいあらされたあととみていい。

このヒラタキクイムシは、ラワン材がごちそうとみえて、最近、とみにラワン材を加工したそなえつけ家具や造作物が急増していることからも、連中、大いに悪のり

して、その被害は確実に広がっている。

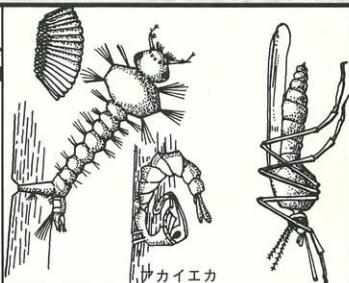
しかし、もともとラワン材ばかりか、キリ、タケ、ナラ、ケヤキなども好んでたべ、近ごろでは合板類にまで、その害がおよんでいる。また、彼らは、木の表面だけはきれいに残す習性があるので、被害の発見は、いつも手おくれになってしまふ。あらかじめ建材に予防処理をするか、信頼できる業者に処理をまかせるしか手はない。

恐怖の害虫軍団総覧

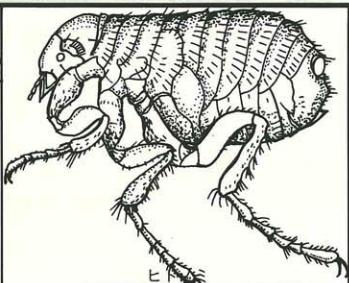
家族のみんなで読みましょう



血を吸う



超小型吸血鬼



4

力

吸血鬼、しかも、伝染病の運び屋

力の仲間たちは、大別して、屋内性のイエカ類と、屋外性のヤブカ類とがあり、いれも、メスだけが血を吸い、オスはさやかに果汁などを吸うだけで害はない。

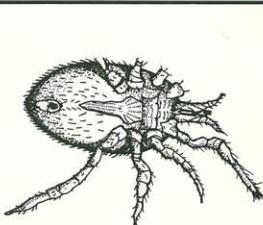
しかし、この連中たちがなによりも恐れられるのは、悪質な伝染病の運び屋だからである。ネットイシマカが運んだ黄熱病で亡くなった野口英世の例をだすまでもなく、コガタハママダラカとマラリア

アカイエカとフィラリア症（象皮病）、コガタアカイエカと日本脳炎……。いずれの伝染病も、国内では大きく減少したが、といって安心はできない。国際交流が活発化している今日、ゆ断は禁もつである。

最近の例として、アフリカでは1年間に1億人もがマラリアにかかり、およそ80万人が死亡した、という報告がもたらされていることを、念のため付記しておきたい。



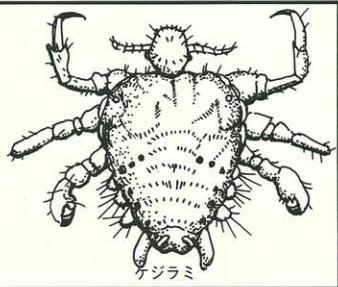
しつこい吸血鬼



イエダニ



世界的吸血鬼



6

ダ

ニ

集中攻撃で牛馬を殺す吸血力

ダニは昆虫ではなく、足が8本あるところからもクモの親類とされている。ダニのようなヤツ……最悪の軽べつを表現するのに、よく使われるが、その通り、しつこく、いやらしい。

1万種にのぼるダニ類の中でもマダニ、イエダニ、トリサシダニそして、今では、ほとんど減少しているが、夏型ツツガムシ病（北陸・東北に多い）や冬型ツツガム

シ病（房総南部・伊豆七島に多い）という風土病のプローカーであるツツガムシ（ケダニ）が有名である。

マダニは牛馬に寄生し、集中攻撃で殺してしまうことさえあるという。イエダニはネズミ、トリサシダニは鳥、ツツガムシはハタネズミにとりついている。

必殺仕掛け法は、1にも2にも彼らが寄生している動物の巣に徹底して殺虫剤をまくことにつきる。

7

シラミ

たそがれの吸血鬼たち

人に寄生する代表的なシラミはコロモジラミ、アタマジラミ、ケジラミの3種だが、今や、連中もDDTの普及で、すっかり影がうすくなってしまった。名前どうりコロモジラミは衣服、アタマジラミは頭の毛、ケジラミはいん毛やわき毛に寄生する。

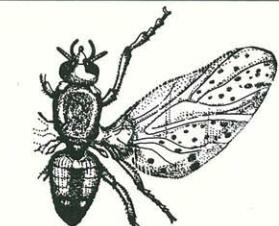
彼らは、ノミ類のようにネズミがダメなら人間に、といった世渡りができる、そのあたりにおち目

の三度笠の原因があるようだ。しかし、彼らが発疹チフスの病原体リケッチャの運び屋であることは忘れてはならない。

その他では、トコジラミ（ナンキンムシ）が悪評とともに知られており、たとえ、減っているといえ、コイツはしたかな吸血鬼だからまたあとの力ユミは想像を絶する。ベッドやソファーの間にひそんでいて、吸血鬼らしく夜間専門に血をもとめてはい回する。



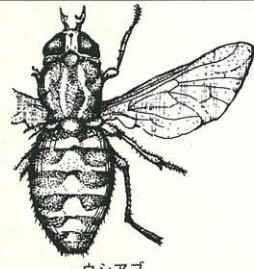
ストローキュラ
持参の



オオキツメテゲブ



ド ラ キ ュ ラ
いなかの



ウシアブ



8

ブ

ユ

山や川でモノを狙う吸血鬼

ハイキングや川づりに出かけてブユに刺された経験をもつ人は多い。この吸血鬼が人里はなれた山や谷川に多いのは、幼虫が柄もなく、きれいな谷川にすんでいるからである。

主に春から夏にかけて発生し、暑くてジメジメしたような朝と夕方に、特に活発な吸血活動を行ない、人や牛馬が、そのエジキとされる。

ブユも、力と同じようにメスだけが血を吸い、フィラリア（象皮病）などの病原体を運ぶ悪役である。

この吸血鬼から身を守る方法は十字架やニンニクでは、まったく効き目はなく、市販されているクリームやスプレーを手足にぬっておけば、5~6時間は、ブユやカをよせつけない。

9

ア

ブ

吸血性小型戦闘機

日本には、およそ40種のアブが分布しているが、人間に攻撃をしかけるものにメクラアブ、ゴマアブアブの類がある。

ブーンと飛んできてチクリと刺す感じは、ちょうど、小型戦闘機のようだ。一般に田んぼや水辺に多く、都会地には少ない。

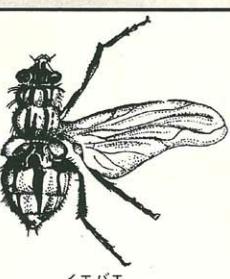
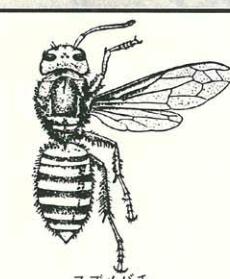
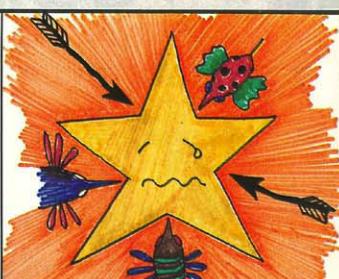
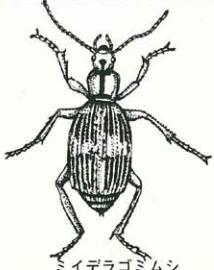
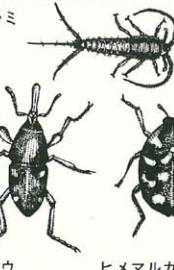
寒冷地などで、旅人に大編隊でばく撃して大害をあたえる例も少なくないという。また、山奥のダ

ム工事などでアブの総攻撃にあり、工事が進行せず、ヘリコプターで殺虫剤をまいたという例もあるほどである。

アブのなかまには、ウシアブ、シロフアブ、キンイロアブのように幼虫のころから人にかみつくものもいて、田植時から夏にかけて被害が多いときく。

アブよけとして、市販されているスプレーがよく効く。

家族のみんなで読みましょう

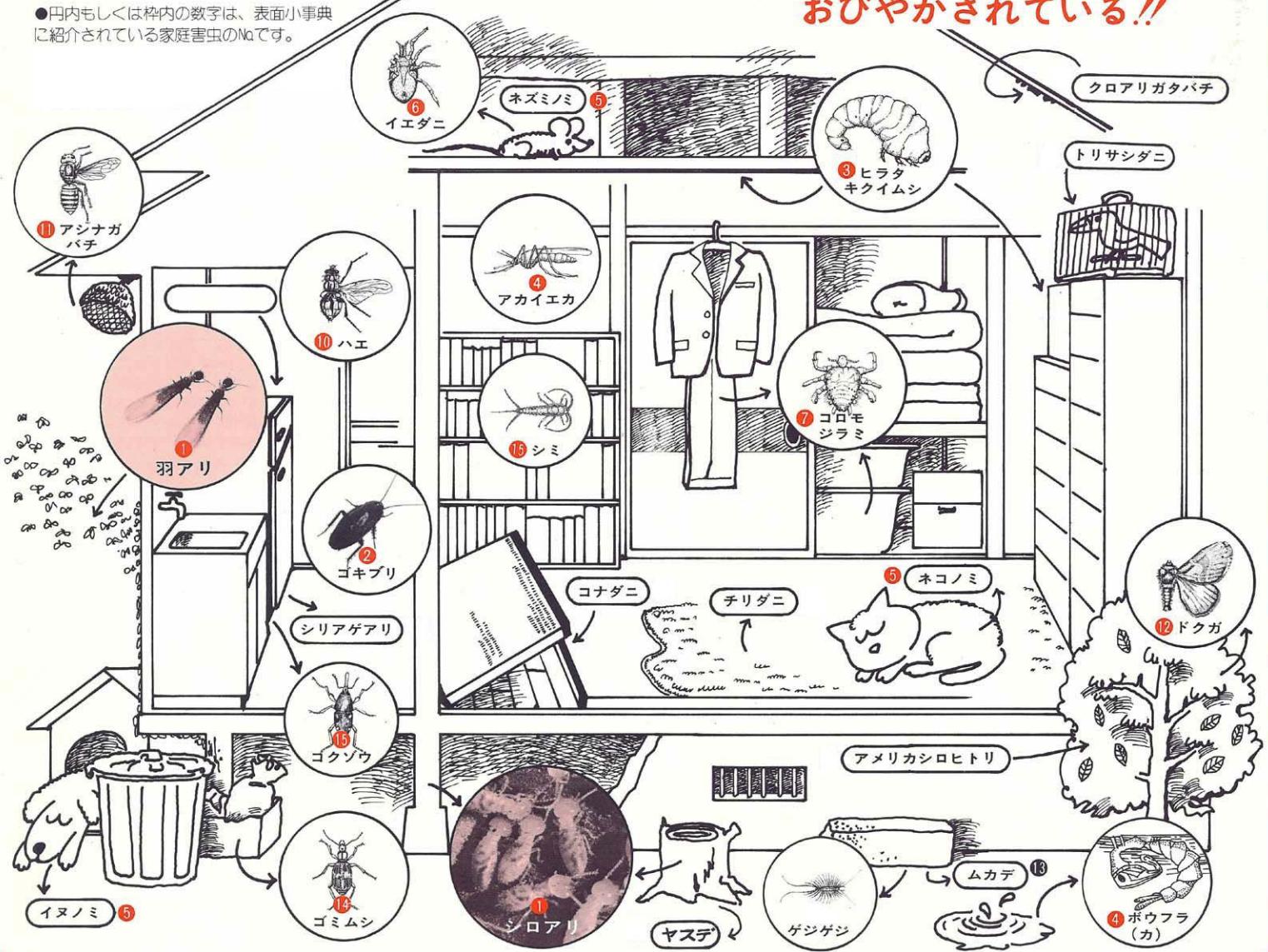
不潔な虫 	 イエバエ					
10 ハエ	<p>バイ菌をばらまく小型飛行機 あまり気分のいい話ではないがハエの発生源からふれてみよう。便所、家畜のいるゆか、たい肥、水産加工所、つけもののおけ、動物の死体、ゴミため……いづれも目をおいたくなる場所ばかりだ。</p> <p>家庭内に出現するハエは、イエバエとヒメイエバエが主力だが、小児麻痺ビールスを運ぶクロキンバエ（北海道・北陸）、オビキンバエ（九州）、そして、牛や馬の血を</p>	<p>吸うサシバエ、動物の死体にむらがるニクバエも見おとせない。</p> <p>このおぞましい連中の繁殖力たるやネズミの比ではなく、1匹が一生で平均500個の卵をうむというのだから、すえ恐ろしい。</p> <p>こうしたハエを根こそぎやっつける方法としては、できれば、ウジの育つ環境そのものを改善するか、さもなくば、徹底的に殺虫剤をまくことにつきるようである。</p>	11 ハチ	<p>からかえばハチだって怒る！</p> <p>いたずらにおかえしはつきものだれしも1度は、ハチの痛い注射にやられたことがあるはず。たいていは、アシナガバチやミツバチの類だが、中には、スズメバチとは知らずに好奇心にまかせて、ついたら、てひどい大注射をされて、病院にとびこんだ、なんてこともあります。</p> <p>ハチ類の親分格は、やはりリスズメバチ類だ。体長20mm～35mm、痛</p>	<p>さも抜群。No.2はアシナガバチ類で、ミツバチに次いで、われわれには身じかなハチだ。</p> <p>いづれのハチも、家や神社のき下、あるいは土中（スズメバチ）にいて、害虫など食って、人間には役立つ、おとなしい昆虫だが1度怒れば、ぜっ体制にゆるしてはくれない。</p> <p>刺された場合、アンモニア水をつけるぐらいで、これといった特效薬はない。</p>	
毒バリを持つ	 ドクガ					
12 ドクガ	<p>必殺毒針仕掛け虫 ドクガが他のドクガ類と違うのは、卵、なぎ、まゆ、ケムシ、ガ……と、生まれてから死ぬまで一生を通じて人を刺す毒針をかくしもっている点である。</p> <p>この毒針が人体に刺さると、不快なカユミが長時間続き、かけばかくほど、ますますかゆくなり、はれ上がってしまう。一般にガよりもケムシに刺された時の方が症状はひどく、眼瞼に刺さって失明</p>	<p>した例も報告されている。こうした場合、特效薬はほとんどないので、ぬるま湯でゆっくり洗い落す方法が一番のようだ。</p> <p>いづれにしても、さわれば刺しほっておけば、野菜や樹木の葉を集團でくいあらすので、まるでいいところのない害虫といえる。憎まれっこ、世にはばかる……といったところか。</p>	13 ムカデ	<p>冷酷無比、無差別殺虫鬼 ムカデは残酷な殺し屋だ。手あたり次第、時には同類でも、くいあらし、ムカデのいるところ、他の昆虫は一匹もいなくなるという。</p> <p>草むらや石垣などで、ムカデをふんだり、からかうと、かみつかれるが、ふいに攻げきをしかけてくる性の悪いのもいて、彼らの毒液で、しばらくの間、はれと痛みが続く。</p>	<p>ムカデのいるところ、他の昆虫は一匹もいなくなるという。</p> <p>草むらや石垣などで、ムカデをふんだり、からかうと、かみつかれるが、ふいに攻げきをしかけてくる性の悪いのもいて、彼らの毒液で、しばらくの間、はれと痛みが続く。</p>	<p>「百足」と書いてムカデと読むが少ないものでイシムカデの15足多いものでジムカデの173足とさまざまだ。また、彼らの体長も、小さなもので3cm、大きなもので30cmとおぼけじみた種類があり、日本ではトビズムカデの13cmが最長とされている。</p> <p>この悪役も古くからヤケドの妙薬として珍重され、農林業者にとっては、害虫をくう益虫として認められている一面もある。</p>
くさい虫	 ミイデラゴミムシ			<p>一般にゴミムシたちは、肉食性夜行虫である。その名にふさわしく、ゴミやおち葉、石の下などで、有害な虫の成虫や幼虫をあさってくれる益虫でもある。</p> <p>彼らの活動時期は、冬をすぎた春3月ごろからはじめ、晴れた日には、時折、まち中などで見かけられる。</p> <p>まずは、あまり、おからかいのないように……。</p>	<p>一般にゴミムシたちは、肉食性夜行虫である。その名にふさわしく、ゴミやおち葉、石の下などで、有害な虫の成虫や幼虫をあさってくれる益虫でもある。</p> <p>彼らの活動時期は、冬をすぎた春3月ごろからはじめ、晴れた日には、時折、まち中などで見かけられる。</p> <p>まずは、あまり、おからかいのないように……。</p>	<p>●カツオブシムシ類 名前の通りカツオブシを好んでたべるが、魚のひもの、羊毛製品衣類……雑食性の類が多く、幼虫の時期に被害を与え、成虫ともなれば花のミソなど吸って、ガラにもなく優雅である。代表格はヒメマルカツオブシムシ、ハラジロカツオブシムシで、一般には、衣類の虫ぼし時、魚をほしている時などに卵をうみつけるので要注意。</p> <p>●コクゾウ類（穀象） コクゾウとココクゾウは世界中にどこでもいるこぐ物の害虫だ。あらゆる種子、実、果物をたべ、秋から冬にかけては屋外で越冬し春になると屋内にしん入して被害を広げる。</p> <p>●シミ類（紙魚） 愛書家などから嫌われているシミは、本や衣類の害虫で、特に本のノリの部分を好んでたべる。日本では、ヤマトシミが多いが、近年、セイヨウシミの活躍が目立つ。</p>
14 ゴミムシ	<p>彼らのなかまで、ツトに悪名の高い虫は、ヘッピリムシと呼ばれるミイデラゴミムシだ。身の危険を感じると高音とともに発する毒液はたとえようもなくクサイ。しかし、この虫も、そのクサさに関しては、ホソクビゴミムシの比ではない。何しろ、あの毒ガスで有名なスカンクでさえ、ワレを忘れて目をシロクロさせたというクセ者である。</p>		15 コカクツゾウ・シムミシ			

★人間生活と害虫相関図★

〈不本意ながらわが家の扶養家族です〉

●円内もしくは枠内の数字は、表面小事典に紹介されている家庭害虫のNoです。

私たちの家庭生活は、これほどの《害虫軍団》におびやかされている!!



●だれにもできる 代表的な家庭害虫ボク滅法 ●

■カ (小事典④参照)

まず頭に浮かぶ方法は、虹取り線香、殺虫スプレーだが、これらは、あくまでも一時之のぎの消滅戦術にすぎない。10匹や20匹撃ついしたからといって、「カ」の戦力は一向おとろえない。

ここは一番、徹底しん滅作戦しかない。連中の発生源である下水、汚水だめ、ドブなどにこまめに掃除をして、よどみをなくすこと、さらに殺虫剤を散布すれば完璧である。

■ゴキブリ (小事典②参照)

害虫のスターの存在だが、それだけに、憎しも憎しというわけで、退治方法もいろいろアイデアを凝らしたものがある。

簡単なものでは、水にとかした洗剤をかける。広口瓶にバターを塗って、ゴキブリの通りそうな所に置

いておく——バターの匂いつられたゴキブリがツルリとすべって瓶の底に、という寸法だ。昨今はやりのゴキブリホイホイの類……いづれもやらないよりはマシという程度のものばかりで、きわめて効率は悪い。

ここは、思いきって本格的に専門家にまかせて、連中の鼻をあかせてやりたいところだ。(Q10、Q12参照)

■ハエ (小事典⑩参照)

とにかく、気になる害虫だ。古くは、食堂や家庭でおなじみのハエとり紙、今日では、スプレー式のものが主流だが、「1匹撃つい」の楽しみはあっても、一生の間で500匹も産卵するハエにとっては、何ら影響はない。どうもナマぬるいのである。

ハエばく滅は、1にも2にも《環境駆除》に尽る。ゴミの収集、焼却庫舎の床の点検・駆除の励行を繰り

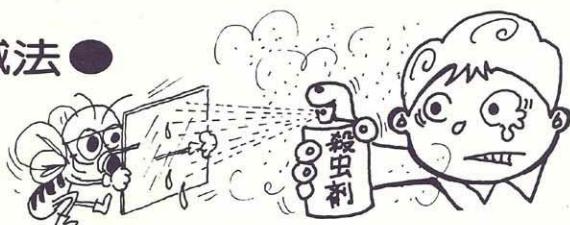
返すことである。特に幼虫(ウジ)の生息場所を重点的に、殺虫剤を撒くことが一番効果的である。

■シロアリ (小事典①参照)

残念ながら、一般家庭でシロアリを退治する方法は皆無である。予防措置をこうするか、せめて、早期発見に細心の注意をはらうしかなく、シット療法は、大ケガの元だ。一世帯30万~100万匹に及ぶシロアリ軍団では、手におえるわけがない。害虫の王者たるユエンである。(「ご質問にお答えします」参照)

■アメリカシロヒトリ

彼らの悪食ぶりは、選らぶところがない。街路樹から庭木に至るまで年々、その被害は拡大されている。単純ながら、卵からかえって、10~15日ほどの間は葉や小枝にあみの



●一口アドバイス ●

どなたでも購入できる市販の家庭用殺虫剤は、害虫の種類、使用方法によって、いろいろ異なります。業者に相談し、尚かつ、使用説明書を読んでからご使用下さい。

また、被害の大きいとき、家庭用殺虫剤で効果のうすいときは、お気軽に当所にご相談下さい。

衛生害虫に関することなら、どのような細かなことでも結構です。できる限り詳しく、ご説明申し上げます。